

## 内服困難な透析患者に対する服薬ゼリーの評価

医療法人衆和会 長崎腎病院

○田端満美子 堤みつ代 内野真理子 丸田麻莉恵 丸山祐子 原田孝司 船越 哲

### 【はじめに】

透析専門病院 A 病棟は週 3 回の透析通院困難や透析終末期(経管栄養 TPN PPN 下肢切断術後 脳血管後遺症 意識レベル低下 認知症及び嚥下困難)の入院患者が多く日常生活自律度 C2 ランクの患者が 86% 前後の病棟である。嚥下に問題のある患者が多く、口腔内残薬や飲み込みにくい患者が見られたために摂食・嚥下スクリーニングシートの為の質問シート<sup>1)</sup>及び ORAL HEALTH ASSESSMENT TOOL 日本語版(OHAT-J)<sup>2)</sup>を評価し、服薬ゼリーを活用し改善が見られたのでここに報告する。

### 【目的】

内服困難の原因を調べ、改善を図る。

### 【対象 方法】

入院患者 46 名に対し質問シート聞き取り調査で、点数の高い透析患者に対して(OHAT-J)と服薬ゼリーを使用した。

### 【結果】

OHAT-J の評価では、ゼリー使用前群とゼリー使用后群で内服残渣と舌苔に関して有意な改善が見られた。

### 【考察】

先行研究<sup>3)</sup>野崎らはゼリーの効果は推奨されている。透析患者は水分制限により唾液減少、口腔内乾燥がある。ゼリーによりオブラート状で包まれ適度な滑りを持たせ嚥下しやすくなり、内服残差の減少や舌苔の消失に繋がりがり、口腔内環境も整えられ味 食感 送り込み 飲み込みやすさがあり食欲増進もみられた。

NST 組織や ST 職員はいないが、今後は病棟スタッフと共に個人に対する問題点を上げ摂食 嚥下に対するカンファレンスで情報交換を行い、共有し個人にあった援助方法を改善し離床を促しながら誤嚥性肺炎予防を行う。